

サムエル  
聖徒伝 83

# 「従うべきは 王の王」

I サムエル記11~12章 サムエルの告別

ペンテコステ  
2021

1church.com

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. サウル王の初陣 11章
- II. サムエルの告別説教 12章
- III. まとめと適用

聖霊が働かれるために



【無垢の時代】  
天地創造

【良心の時代】  
墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】  
バベルの塔事件

【約束の時代】  
アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】  
イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】  
聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】  
千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

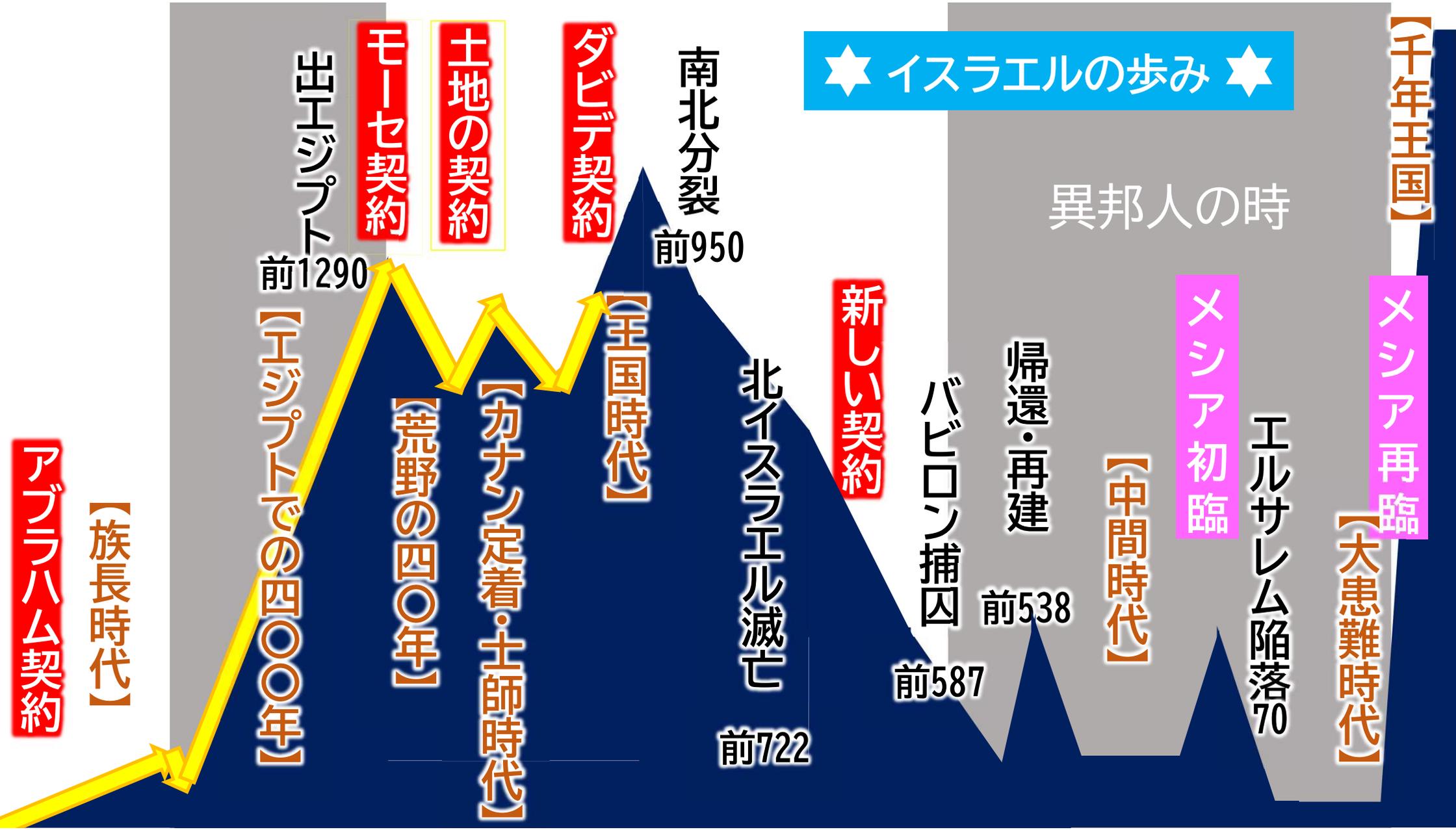
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

エジプト

前1290

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

土地の契約

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

エルサレム陥落

70

メシア初臨

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

サムエル記 第一

士師時代

サムエル

1:1~2:11	サムエルの誕生
2:12~3:21	サムエルの召命
4:1~7:17	奪われた契約の箱
8:1~9:27	後継者不在 王を求める民

王政時代

サウル

10:11~11:15	油注ぎ
12:1~25	士師サムエルの民への告別
13:1~15:35	王が重ねた神への背き

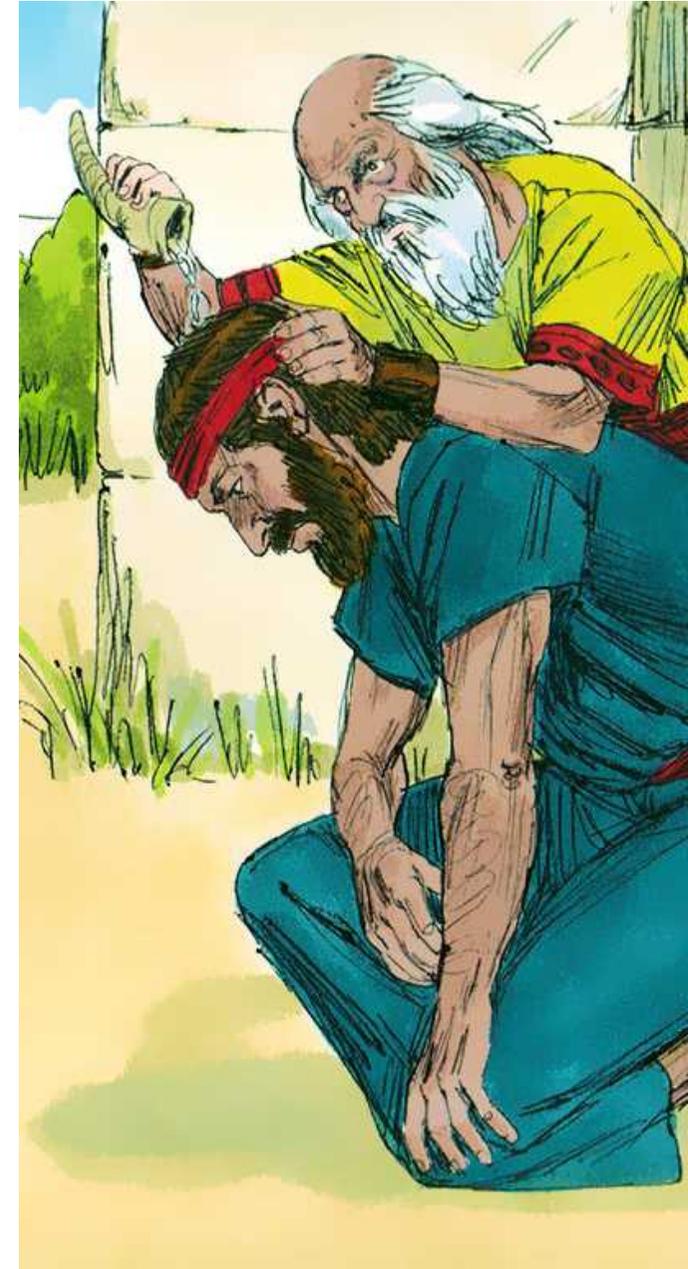
ダビデ

16:1~13	油注ぎ
16:14~23	王宮での奉仕
17:1~58	ゴリヤテとの戦い
18:1~30	サウルの娘ミカルとの結婚
19:1~26:25	荒野の逃亡の日々
27:1~30:31	ペリシテ人の地で
31:1~13	サウルの死



## 【サウルの油注ぎ】 I サムエル8～10章

- 背信と混沌の士師の時代、最後に立てられたサムエルは、イスラエルを民族的悔い改めに導き、40年間、裁き治めた。
- イスラエルは、真の王である神を退け、自分たちの上に立つ人間の王を願った。神は、許容的御心によって、願いを聞かれた。
- 神は、ベニヤミン族のサウルを王に選ばれた。サウルは、サムエルに油注がれ、王となった。
- 「油注ぎ(メシアツハ)」が、メシアの語源。



## 【律法が告知していた王の条件と責務】 申命記17:14~20

あなたの神、【主】があなたに与えようとしておられる地に入って行って、それを占領し、そこに住むようになったとき、あなたが「周りのすべての国々と同じように私も自分の上に王を立てたい」と言うなら、

①王の選出条件 →主がイスラエルから選ばれた者を王として立てる。

### ②王への戒め

- ・馬を増やすな。(軍事力の過度な増強)
- ・多くの妻を持つな。(異国との政略結婚)
- ・財産を過剰に持つな。(過大な物欲 →重税)

世的  
繁栄



偶像  
礼拝

③王の義務 →律法の写しを手元に置き、生涯学び、従う。



# I. サウル王の初陣

I サムエル記11章

ヨルダン川東岸から

## 【アンモン人の脅威】 I サムエル11:1

さて、アンモン人\*ナハシュが上って来て、ヤベシュ・ギルアデ\*に対して陣を敷いた。

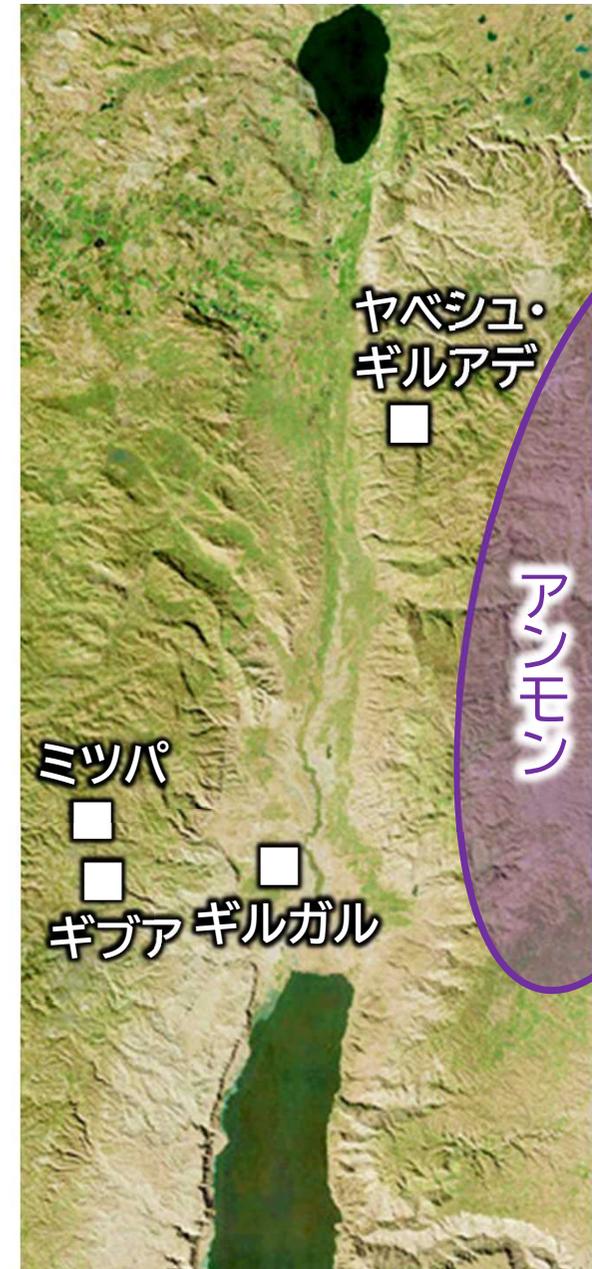
\*アンモン人 …ヨルダン川東岸の士師時代の強敵。  
ギルアデ人の士師エフタが戦った。

\*ヤベシュ・ギルアデ

…マナセの半部族(ギルアデ人)の町。

■士師時代初期のベニヤミン族聖絶の戦いに不参加のため滅ぼされ、町の乙女たちが、ベニヤミン族の生き残りに嫁がされた。(士師記21章)

➡ベニヤミンと親族関係に。



## 【ナハシュの要求】 I サムエル11:2~3

アンモン人ナハシュ\*は彼らに言った。「次の条件でおまえたちと契約を結ぼう。おまえたち皆の者の右の目をえぐり取る\*ことだ。それをもってイスラエル全体に恥辱を負わせよう。」ヤベシュの長老たちは彼に言った。「イスラエルの国中に使者を遣わすため、七日の猶予\*を与えてください。もし、私たちを救う者がいなければ、あなたのところに出て行きます。」

\*右の目 …距離感をつかめない ➡戦えない。

\*ナハシュ …“蛇”の意味。邪悪な人格の表れか。

\*七日の猶予 …攻城戦には多大な時間と労力が。  
敵にとっても降参してくれた方が楽。



## 【民の嘆き】 I サムエル11:4~5

使者たちはサウルのギブア\*に来て、これらのことばを民の耳に語った。民はみな、声をあげて泣いた。ちょうどそのとき、サウルが牛を追って\*畑から帰って来た。サウルは言った。「民が泣いているが、いったい何が起こったのか。」彼らは、ヤベシュの人々のことばを彼に告げた。

\*ギブア …ベニヤミンの町、大罪で聖絶(士師20章)。

\*牛を追って …以前と変わらない生活のサウル。

まだ正式な即位に至ってなかった？

■ サウルを侮り、王と認めない人々(1サム10:27)



## 【サウルに降った聖霊】 I サムエル11:6~7

サウルがこれらのことばを聞いたとき、**神の霊**がサウルの上に激しく下った。**\*** 彼の怒りは激しく燃え上がった。彼は一くびきの牛を取り、それを切り分け、使者に託してイスラエルの国中に送り、「サウルとサムエルに従って出て来ない者の牛は、このようにされる」と言った。**【主】**の恐れが民に下って、**\*** 彼らは一斉に出て来た。

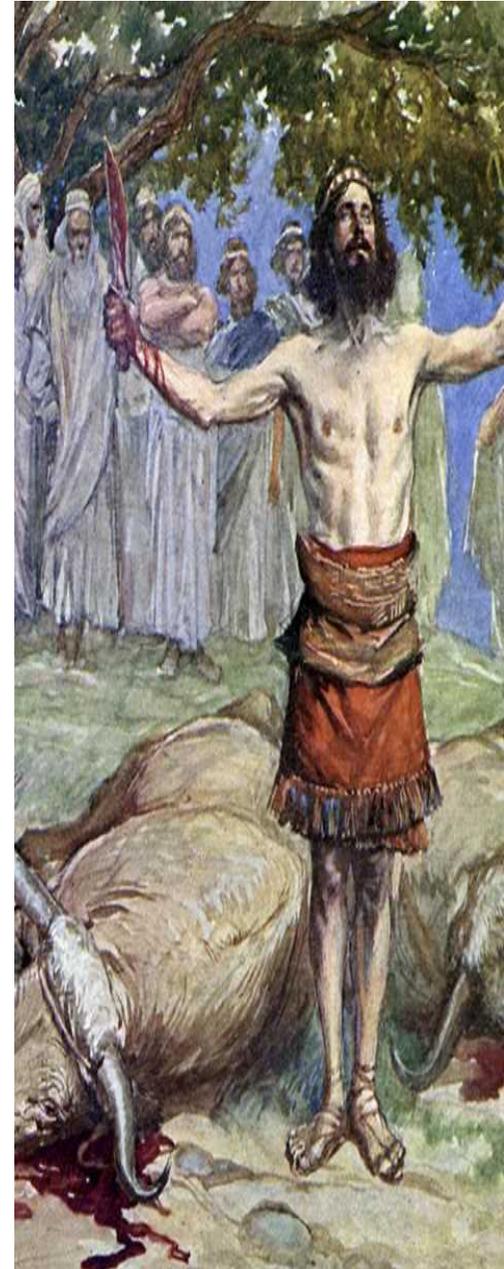
**\***この時代、聖霊は、神の使命を受けた者に一方的に降る。

例)幕屋建設監督者、ヨシュア、サムソン。あのバラクも。

**\***ベニヤミン聖絶の時、レビ人が妾の肢体を送った。

➡ここではベニヤミン族出身の王サウルが送ってきた。

■悔っていた民も、恐れおののいて戦いに招集されてきた。



## 【アンモンに対する勝利】 I サムエル11:8~11

サウルはベゼクで彼らを数えた。すると、イスラエルの人々は三十万人、ユダの人々は三万人であった。彼らは、やって来た使者たちに言った。「ヤベシュ・ギルアデの人にこう言いなさい。明日、日が高くなるころ、あなたがたに救いがある。」使者たちは帰って行って、ヤベシュの人々に告げたので、彼らは喜んだ。ヤベシュの人々は言った。「私たちは、明日、あなたがたのところに出て行きます。あなたがたの良いと思うように私たちにしてください。」

翌日、サウルは兵を三組に分け、夜明けの見張りの時に陣営に突入し、昼までアンモン人を討った。生き残った者は散り散りになり、二人の者がともにいることはなかった。



## 【寛容を示すサウル王】 I サムエル11:12~13

民はサムエルに言った。『サウルがわれわれを治めるのか』と言ったのはだれでしたか。その者たちを引き渡してください。彼らを殺します。」

サウルは言った。「今日はだれも殺されてはならない。\* 今日、【主】がイスラエルにおいて勝利をもたらしてくださった\*のだから。」

\*寛容も、王の権威を人々に印象づけるもの。

\*神の前での謙遜、敵への怒りと戦いの姿勢、民に対する寛容。 ➡王にふさわしい態度。



サウル王のデビュー戦は申し分なし!!

## 【サウル王の即位】 I サムエル11:14~15

サムエルは民に言った。「さあ、われわれは**ギルガル\***に行つて、そこで王政を樹立しよう。」

民はみなギルガルに行き、ギルガルで、【主】の前にサウルを王とした。彼らはそこで、【主】の前に交わりのいけにえを献げた。サウルとイスラエルのすべての者は、そこで大いに喜んだ。

\*ヨシュアとイスラエルが最初に足を踏み入れた地。

➡**割礼**を施し、出エジプト以来の**過越祭**を祝った。  
初めて約束の土地の産物を食べた。

歴史的な地でサウル王が正式に即位した!!





## Ⅱ. サムエルの告別説教

## I サムエル記12章

ギルガルの荒野

## 【語り始めるサムエル】 I サムエル12:1~2

サムエルは全イスラエルに言った。「見よ、あなたがたが私に言ったことを、私はことごとく聞き入れ、あなたがたの上に王を立てた。

今、見なさい。王はあなたがたの先に立って歩んでいる。私は年をとり、髪も白くなった。そして、**私の息子たちは、あなたがたとともにいる。\*** 私は若いときから今日まで、あなたがたの先に立って歩んできた。

**\*不正を働いていた息子たち(8:3)。悔い改めたか。**

**■民が望んだ王は立てられた。サムエルは、裁き司を引退するにあたり、最後の説教を民に残す。**



ギルガルの荒野

## 【証しを立てるサムエル】 I サムエル12:3~4

さあ今、【主】と主に油注がれた者の前で、私を訴えなさい。私はだれかの牛を取っただろうか。だれかのろばを取っただろうか。だれかを虐げ、だれかを打ちたたいたただろうか。だれかの手から賄賂を受け取って自分の目をくらましたただろうか。もしそうなら、あなたがたにお返しする。」

彼らは言った。「あなたは私たちを虐げたことも、踏みにじったことも、人の手から何かを取ったこともありません。」

- 晩年に主に問われ、裁かれたエリとは対極。
- 生まれながら主に誓願を立てたナジル人として生涯を全うしたサムエル。



## 【サムエルの宣告の証人】 I サムエル12:5~6

サムエルは彼らに言った。「あなたがたが私の手に何も見出さなかったことについては、今日、あなたがたの間で【主】が証人であり、主に油注がれた者が証人である。」そこで、ある人が「証人は」と言うと、サムエルは「【主】である。モーセとアロンを立てて、あなたがたの先祖をエジプトの地から上らせた方である」と民に告げた。

■これからサムエルが告げる言葉の布石。

➡主に忠実に従い通したサムエルの言葉は、主ご自身が保証される、神の言葉である。



ギルガルの荒野

## 【解き明かされる主の正義】 I サムエル12:7

「さあ、立ちなさい。私は、【主】があなたがたと、あなたがたの先祖に行われた**すべての正義のみわざ**を、【主】の前であなたがたに説き明かそう。

- サムエルが第一に解き明かすのは**神の正義**。
- イスラエルの神は**義なる神**。➡信仰の土台。  
アブラハムと子孫への約束は完全に果たされる。
- イスラエルを通して、神の義は表されてきた。  
➡イスラエルの歴史とは、**神の正義の歴史**。

神の言葉を学ぶ者は、第一に神の義を知る



義なきところに  
愛は立たない

## 【先祖の罪と神の義】 I サムエル12:8~11

ヤコブがエジプトに行ったとき、あなたがたの先祖は【主】に叫んだ。【主】はモーセとアロンを遣わし、彼らはあなたがたの先祖をエジプトから導き出し、この場所に住まわせた。

しかし、先祖たちは自分たちの神、【主】を忘れたので、主は彼らをハツォルの軍の長シセラの手、ペリシテ人の手、モアブの王の手に売り渡された。それで先祖たちは彼らと戦うことになったのだ。

先祖たちは【主】に叫んで、『私たちは【主】を捨て、バアルやアシュタロテの神々に仕えて罪を犯しました。今、私たちがあなたに仕えるため、敵の手から救い出してください』と言った。

すると【主】は、エルバアルとバラクとエフタとサムエルを遣わし、あなたがたを周囲の敵の手から救い出してくださった。それで、あなたがたは安らかに住んだのだ。



## 【繰り返された罪の末に】 I サムエル12:12

しかし、アンモン人の王ナハシュがあなたがたに向かって来るのを見たとき、あなたがたの神、【主】があなたがたの王であるのに、『いや、王が私たちを治めるのだ』と私に言った。

- 神は、エジプトからイスラエルを救い、この地を与えた。  
➡しかし彼らは主を忘れ、異邦人に苦しめられた。
- 悔い改めた民の中に、主は士師を立てられ、敵を撃退し、平和を与えてくださった。
- 最後の士師サムエルによって、40年の平和を謳歌したイスラエルはしかし、主を見捨て、王を求めた。



王を求めたのは罪の極み

## 【恐れるべき方を恐れよ】 I サムエル12:13~15

今、見なさい。あなたがたが求め、選んだ王だ。見なさい。【主】はあなたがたの上に王を置かれた。

もし、あなたがたが【主】を恐れ、主に仕え、主の御声に聞き従い、【主】の命令に逆らわず、また、あなたがたも、あなたがたを治める王も、自分たちの神、【主】の後に従うなら、それでよい。

しかし、もし、あなたがたが【主】の御声に聞き従わず、【主】の命令に逆らうなら、【主】の手が、あなたがたとあなたがたの先祖の上に下る。

■ 背きの民に王を与えた、神の計り知れない恩寵。

しかし、今度罪を犯せば、その責任は遙かに大きい。



## 【乾期に下った雷雨の奇跡】 I サムエル12:16~18

今、しっかり立って、【主】があなたがたの目の前で行われる、この大きなみわざを見なさい。

今は小麦の刈り入れ時\*ではないか。【主】が雷と雨を下されるようにと、私は主を呼び求める。あなたがたは王を求めることで、【主】の目の前に犯した悪が大きかったことを認めて、心に留めなさい。」

そしてサムエルは【主】を呼び求めた。すると、【主】はその日、雷と雨を下された。\* 民はみな、【主】とサムエルを非常に恐れた。

\*イスラエルの暦では五旬祭。\*乾期のただ中に雷雨が!

サムエルの告別説教は、  
ペンテコステメッセージ!

宣告の保証

## 【イスラエルの民の認罪】 Iサムエル12:19～20

民はみなサムエルに言った。「私たちが死なないように、しもべどものために、あなたの神、【主】に祈ってください。私たちは、王を求めることによって、私たちのあらゆる罪の上に悪を加えてしまった\*からです。」

サムエルは民に言った。「恐れてはならない。あなたがたは、このすべての悪を行った。しかし【主】に従う道から外れず、心を尽くして【主】に仕えなさい。\*」

\*自分たちの罪を正しく理解したイスラエルの民。

■信仰の回復は、いつでも己の罪の正しい認識から。

\*憐れみの主は、悔い改めた者になお、

チャンスを与えられる。➡求められる主への従順。



## 【主の懲らしめと憐れみ】 I サムエル12:21~22

役にも立たず、救い出すこともできない、**空しいもの\***を追う道へ外れてはならない。それらは、空しいものだ。

【主】は、ご自分の大いなる御名のために、ご自分の民を捨て去りはしない。\* 【主】は、あなたがたをご自分の民とすることを良しとされたからだ。

\*空しいもの …その極みが偶像。

空しいものを追う道が、偶像礼拝。

\*どんなに厳しい懲らしめをもってしても、  
主は、ご自分の民を悔い改めに導かれる!!

**神の義と愛、懲らしめと救いは不可分のもの**



## 【指導者の責務】 I サムエル12:23～25

私もまた、あなたがたのために祈る\*のをやめ、【主】の前に罪ある者となることなど、とてもできない。私はあなたがたに、良い正しい道を教え\*よう。

ただ【主】を恐れ、心を尽くして、誠実に主に仕えなさい。主がどれほど大いなることをあなたがたになさったかを、よく見なさい。あなたがたが悪を重ねるなら、あなたがたも、あなたがたの王も滅ぼし尽くされる。\*」

\*指導者の重大な責務は、

民を主にとりなし、民に主の道を説き続けること。

➡この責務を怠ることは、罪。

\*王に与えられた大きな権限。主に背けば、裁きも甚大。





## Ⅲ. まとめと適用 聖霊が働かれるために

ヨルダンの山地

## 【最後の士師サムエルの功績を確認しよう】

■ 全生涯を主に委ね、主に従い通したサムエル。

最大の功績は、主の律法を守り、民に教え諭したこと。

ヨシヤ王の時代に至るまで、サムエルほど律法に従った者は皆無。

(Ⅱ歴35:18)

■ 告別説教において、サムエルはイスラエルの歴史、律法から告げた。  
度重なる罪にも関わらず、イスラエルを導いた、約束の神の義を!!

■ 民は、罪を重ねた末に、主を拒み、王を求めた、罪の重さを知った。  
罪を認め、悔い改め、主の計り知れない恵みと、裁きの重さを知った。

**認罪と悔い改めから、イスラエルの王国の歩みは始まった。**

## 【ペンテコステの出来事。教会誕生とサムエルの告別】

■主イエスの復活から50日。昇天から10日後。律法の定める五旬祭。  
主に従い、エルサレムで祈っていた弟子たちに**聖霊**が降った。

➡これがペンテコステ。教会の誕生。今も続く教会時代の始まり。  
立ち上がった使徒ペテロは、**イスラエルに悔い改めを迫った。**

■サウル王の誕生を受け、サムエルが退いたのが、五旬祭の頃。  
サムエルは、生涯、主に従い、常に**聖霊**に満たされていた。

➡新しい王国時代の始まりに、サムエルは、  
イスラエルの歴史を語り、**イスラエルに悔い改めを促した。**

## 【サムエルとペテロ、二つのパンテコステメッセージの共通点】

- サムエルは、**イスラエルの歴史**を語った。出エジプト、士師の時代。  
罪の末に、民は**主を拒み**、自分たちの王を求める大罪を犯した。
- ペテロは、**イスラエルの歴史**から、ダビデのメシア預言を告げた。  
しかし、民は**メシアを拒み**、十字架で殺す最大の罪を犯した。
- 共通して求められているのは、  
**イスラエルが自らの罪を認め、悔い改め。正しい信仰に立つこと。**

今、教会時代にイスラエルに求められるのは、福音を信じること

## 【今の教会時代に、異邦人がイスラエルを覚えて祈るとは？】

- イスラエルに律法を通して約束されたメシア、主イエスは、私たちの罪のために十字架で死んで、葬られ、復活された。
- 私たち異邦人も、この**福音**を信じて救われた。
  - ★ 主が願われ続けているのは、**イスラエルが福音を信じること。**
  - ★ 主が約束されているのは、**イスラエルの民族的回心と救い。**
    - ➡ ペンテコステにペテロが最初に告げたヨエル書は、その預言。
- 異邦人信者の義務は、**イスラエルにねたみを起こさせ、彼らを悔い改めと救いに導くこと。(ロマ1:11)**
- ユダヤ人以上に、彼らの聖書を学び、その恵みを味わい知ろう。そのこと以上に、イスラエルを覚えて祈ることはない!!

## 【聖霊の働きを正しく知ろう】

- サムエルもペテロも、イスラエルの罪を告げ、悔い改めを促した。  
聖霊が促すのは、**①罪を認め、悔い改めて救われて、(認罪・義認)**  
**②罪の自覚を深め、成長していくこと。(聖化)**
- 聖霊は、一方的に目に見える力で働かれることがある。  
例) サウルの勝利。ペンテコステに異言を語った弟子たち。
- 何より重要なのは、その後に語られた、サムエル、ペテロの言葉。  
聖霊のもたらす最大の恵みとは、  
御言葉を解き明かし、解き明かされた御言葉を理解する力。

## 【目に見えるしるしに捕らわれず、御霊の本質を求めること】

- 異言や癒やし、目に見えるしるしに捕らわれると、容易に道を外れる。
- 現代の自称「使徒」や目新しい「預言」を警戒しよう。  
少しでも聖書からずれば、一部でも外れば、偽教師、偽預言。  
➡ 聖霊が告げることが、聖書の御言葉と常に完全に一致している。
- 聖霊は紳士。キリストが告げた以上のことは、決して語られない。  
➡ この時代、御言葉によらずして、聖霊が働かれることはない。
- 聖霊が最大限に働かれるのは、この時代の教会の使命に生きる時。  
福音を告げ、御言葉を正しく解き明かし、主を深く知っていこう。  
イスラエルに、ユダヤ人に、ねたみを起こさせるほどに!!

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

信じたわたしの内に住まわれる ご聖霊におゆだねします。

ますますよろこんで みことばを学び、主を知ることができますように。

あなたの民、イスラエルに ねたみを おこさせるほどに、

私たちの理解(りかい)を深(ふか)め、用いてください。

主よ。あなたのもたらされる真実(しんじつ)の平和をこそ、もとめます。

御霊(みたま)で満(み)たし、遣(つか)わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」